

宮澤 俊憲（みやざわ としのり）

教授

専門分野／データ解析、技術経営論

東京工業大学大学院理工学研究科経営工学専攻博士課程修了。博士（工学）。亜細亜大学経営学部非常勤講師、専修大学経済学部非常勤講師、東京成徳期大学ビジネス心理科准教授、東京成徳大学経営学部准教授を経て、平成25年現職。



経営学部生に必要なとなるITの実力

日々のニュースで、クラウド、AI、IoT、ビッグデータなどの言葉を目にしないことがない時代になっています。すなわち、将来どのような分野に進むにしてもITはごく身近な存在です。それでは「ITに関する実力がある」とはどのようなことでしょうか。

最近の入学者の傾向として、スマートフォンは使いこなせてもパソコン操作に困る学生が増えています。しかしビジネス実務では今後もパソコン利用がメインであることは変わらない状況です。そこで「ITに関する実力」をスキルと知識に分けて考えます。

まずITのスキルとしては、仕事を進める上でWord、Excel、PowerPointが使えることは必須です。授業では、最初の1年間でこのようなOffice関連ソフトを、基本から中級レベルまで段階を踏んでマスターします。まず1年次に基本的スキルを確実なものにしておくことが肝要です。

なお、こうしたソフトを使うときにすべての機能を知り尽くす必要はありません。2割程度の機能を知っていれば、8割以上の仕事が片付きます。これをビジネスでは「8対2の法則」と言います。ソフトの操作方法を習得するには、実際に「使って覚えていく」のが早道です。ただし高度化する業務に対応するにはOfficeソフトが使えるだけで充分ではなく、ITに関する知識が欠かせません。

それではITに関する知識としては何が必要でしょうか。IT分野は技術変化が激しく、現在最新の技術であっても数年後には利用されないものもあります。その一方で基本は何十年たっても変わりません。特に社会科学系の学部生としては、個別の要素技術に関する深い知識よりも、IT分野全体を俯瞰的に理解し現在の立ち位置を把握する能力を身につけることが必要です。

そのために、経営学部の情報カリキュラムでは、4年間を通じてデータベース、ネットワークとセキュリティ、Web技術、経営情報システム、統計分析手法など、ITの土台を構成する基礎知識をバランス良く修得できるように科目を配置してあります。また、基本に加えて最新の動向についても各科目で紹介と解説をしています。

入学後は、是非に自ら積極的に学び、「コンピュータを活用できる」人材になることを期待しています。